



はじめてみませんか？ “俳句”のある生活

～市は、「俳句」のユネスコ無形文化遺産への登録をめざします～

【問い合わせ】 文化交流課 ☎22-9621 FAX22-9694

感性と美意識を育む

国内外に多くの愛好者を持つ俳句は、子どもから高齢者まで誰でも親しむことができる裾野の広い文学形式です。

俳句を詠むという行為は、特別な道具や専門の知識を必要としません。自然と共生し、身近なものに心を動かすことで生まれる、まさに日本人の感性と美意識を体現するものといえるでしょう。

季節の移ろいに心を寄せて自然を身近に感じ取り、心の動きを感じながら俳句を詠むという習慣は、現代に生きるすべての人の生活にゆとりと人間らしさ呼び起こすものではないでしょうか。

ユネスコ登録をめざして

松尾芭蕉のふるさとである伊賀市では、俳句を「次世代に継承し人類が保全すべき文化的価値を持つもの」と考え、その必要性を国内外に発信する方法のひとつとして、ユネスコ無形文化遺産への登録をめざし、取り組みを進めています。

今回は、「俳句」について、その魅力や始め方などを紹介します。

▲(写真) 市内各所で句会が開かれて
います。

わずか17音と「切れ」の余韻が織り成す俳句の世界

世界一短い詩

「皆さんご存じのとおり、俳句は5・7・5の17音律で完成する世界一短い詩です。」と話すのは、俳句雑誌「山繭」を主宰する俳人の宮田正和さん。

「17音の中に、息をつぎ間合いをとる『切れ』が存在し、『切れ』は余韻を作り出します。言葉と言葉の間の何もない空間を味わい、空間があることによって大きなものを伝えることができる詩の形といえます。」

「切れ」とは、「や」「かな」「けり」が代表的な「切れ字」ですが、その他、さまざまな言葉・音で切れ、間合いが生まれる俳句の手法です。句の中に切れがあることで、読み手に想像の余地を与え、句の中に引き込みます。切れが俳句の広がりを生み出しているといえるでしょう。

日本語の特徴が生きる

日本語は漢字やひらがな、カタカナなどの複数の文字で構成される、世界でも珍しい言語です。宮田さんは、日本語特有の文字の構成に



▲俳句雑誌「山繭」を主宰する宮田正和さん。毎年芭蕉祭で披講される芭蕉献詠俳句の選者でもある。

よって俳句は成立するのではと感じているそうです。

また、最近、外国語で俳句を詠む国際俳句などが教育にも取り入れられていることを受けて、「外国でも、俳句の表現の幅広さが理解され、認められてきたのではないのでしょうか。」と話されます。

変化し続ける俳句文学と解釈

芭蕉さんが伊賀で生まれたことは皆さんもご存じかと思えます。

芭蕉さんは、江戸時代に庶民の遊びとして流行した俳諧（連歌）の芸術性を高め、連歌の中の最初の句（発句）を俳句として独立させました。戦後には、社会性俳句（社会性のあるテーマや素材を詠った俳句）が流行しましたが、社会の情勢とともにその風潮も落ち着きをみせ、時代とともに詠まれる俳句も変化していききました。

俳句を始めた頃は、社会性俳句を詠む結社（句会を開催する団体）に所属していた宮田さんですが、その結社が解散した後、自ら結社を立ち上げ、活動を続けてきたそうです。

「私は、これまで50年近く俳句に携わってきました。俳句には、長く続けることで次第に理解できるように

なることがあります。」

一生勉強の奥が深い文学

宮田さんは、ひとつの句に対する思いの変化を松尾芭蕉の句「古池や蛙飛び込む水の音」を例にあげて次のように話しました。

「この句の見解に、『静寂』を詠んだ俳句だという説があります。目に見える古池と蛙のいる風景に加えて水の音を言うことで、蛙が古池に飛び込む前後に存在する静けさを伝えているという解釈です。この句を知った頃は、ただ水の音を表現しただけの句と考えていましたが、今はなるほど、この解釈が当たっていると思えます。」

また、宮田さんによると、この句は最初、『山吹や』ではじまっていたそうです。

「山吹は鮮やかな黄色の花です。それではにぎやかすぎて普通の俳句になってしまうと芭蕉さんは思ったのではないのでしょうか。最終的には『古池や』とし、池を包む静寂そのものだけを言う句になっています。このように、言葉と言葉の間の何もないものを鑑賞することができる、良い俳句はそういうふうになりつつある」と最近になって感じます。

俳句は、わずか17音で完成する詩ですが、鑑賞する幅が広く、理解したと思っても次々に表情を変えていきます。俳句は、一生勉強の奥の深い文学だと宮田さんは話しました。

良き指導者や仲間との出会いが 継続や上達につながる

句会で楽しみながら腕を磨く

宮田さんに、これから俳句をはじめたいと考えている人は何をすればよいですかとたずねたところ、「ぜひ句会に参加してもらいたいと思います。」という答えが返ってきました。

句会とは、指導者を含めた何人かのグループでお互いの句を鑑賞し合う会のことです。

句を作り、その句を評してもらうことに加え、人の句を選ぶことも鍛錬になるのだそうです。



《句会の流れ》

①参加者が句を提出する

※その場で作ることもありますが、ほとんどの場合、事前に作って持ち寄ります。

②すべての句の中から、名前を伏せた状態で、指導者と参加者が気に入った句を選ぶ

③選ばれた句について、指導者が講評をする

宮田さんは「私も最初は一人で俳句を作っていました。が、やはり一人よがりになってしまっているので、第三者の目が必要だと感じています。良い指導者、自分に合うと思える指導者を得て句会に参加し、人の俳句を読んで理解することが進歩につながります。」と話します。

選ぶ力と作る力は車の両輪と同じ

句会に参加して句を選ぶ行為の大切さについて、宮田さんは、「句を選ぶ力と作る力は車の両輪と言われている、片方だけ上達するということはありません。人の句がわから

市内で行われた

俳句入門教室の参加者2人に

お話を伺いました

昨年初めて俳句入門教室に参加し、今年で2年目の参加です。

芭蕉の故郷である伊賀で生まれ育ったということもあり、以前から俳句に興味がありました。また、最近はテレビ番組でも俳句が取り上げられブームになっていて素人でも気軽に始められそうだと感じたことがきっかけで俳句作りを始めました。

俳句は感性を養うには最適です。頭の体操にもなるので、これからも続けていきたいと思っています。

(服部 久雄さん 70代 榎山)

以前から俳句には

興味を持っていたのです

が、どんなふうを始めたら

いいのかわかりませんでした。

新聞で俳句入門教室の記事を

読んで、飛びつきました。

今は俳句を作るのがとても

楽しく、作っているうちにひら

めきがよくなったように思いま

す。妻も一緒に作るようになり、

教室には来ませんが、家では俳

句を通じて共通の話題が増えま

した。

(猪岡 節夫さん 50代 岩倉)

市内で句会を行う結社を

紹介します

句会が初めてでも大丈夫です。まずは、はがきに句会に参加したい旨と、住所・氏名・電話番号を明記の上、次の代表者宛てに郵送してください。句会の幹事さんからご連絡くださいます。

◆山繭 (主宰:宮田 正和さん)

〒518-1404

伊賀市中柘植184番地の2

※市内各所の地区市民センター！

公民館などで開催

◆芭蕉伊賀

(主宰:藤井 充子さん)

〒518-0873

伊賀市上野丸之内39番地の53

※ハイトピア伊賀で毎月1回、定

例の句会を開催するほか、地

区市民センターなどでも開催

◆年輪 (代表:坂口 緑志さん、

伊賀支部代表:西田 誠さん)

〒518-0022

伊賀市三田911番地の3

※上野西部公民館や島ヶ原公民

館など、市内各所で開催

◆蟻乃塔 (主宰:塩田 数相子さ

ん、伊賀支部長:川波 楊花さん)

〒518-1322

伊賀市玉滝2827番地の2

※栄楽館や阿山公民館など、市

内各所で開催

俳句を詠むって特別なことちゃうで
見たまんま、思ったまんまを
俳句にしたらいいと思う



はか石にたましいねむるつゆ晴れま
平井 幸祈さん

◀ 昨年の芭蕉祭献詠俳句「児童・生徒の部」で
特選となった平井幸祈さん（柘植小学校5
年）。特選句「はか石にたましいねむるつゆ
晴れま」は、柘植小学校で毎年行われる春の
吟行*の際、小学校の隣にあるお寺で詠んだそ
う。学校の授業や行事など、さまざまな場
面で俳句はいつもそばにあるのだという。
* 吟行…野外や名所などを訪れて句を詠むこと

文字を整える過程を大切に
宮田さんは、俳句を楽しむための

ないと自分の句を作る力は養われな
いでしょう。」と選ぶ機会を持つこと
の必要性を語りました。
伊賀市内でも句会を行っている団
体が多数あります。地区市民センタ
ーや公民館などでも句会が行われてい
ますので、近くの施設で参加してみ
てはいかがでしょうか。また、市内
の結社に連絡することで、初心者
が参加できる句会を紹介してもらっ
てもできます。
「俳句を始めたいという人の来訪
は、どこの句会でも歓迎されるので
はないでしょうか。」

手法について、「俳句の雑誌に投稿し
たり、インターネットで俳句を投稿
するという手段もありますが、やは
り、句を詠んだら俳句帳（俳句を綴
るノート）に書き込み、記した後も
修正を重ねて文字を整えるという作
業が大切です」と話しました。

言葉に興味を持つことが
俳句を作る力を養う

俳句作りのコツは何ですかとたず
ねると、宮田さんは、俳句に限らず
さまざまな本を読むことだと言いま
す。
「いろいろな本を読むのが好きな人
が基本的には俳句でも上達している
のではないのでしょうか。つまり、言葉
に興味を持つということです。俳句
は、言葉の芸ですから。」

日本語には、意味が同じでも漢字
や読み方の違う言葉が多数あります。
それらに興味を持ち、知ること
で、俳句を作るときに言葉を使いこな
すことができるようになります。

「日本語はおもしろい言語です。『切
れ』という特徴を持つ俳句を日本人
はもちろん、外国の人たちにも理解
してもらえたら嬉しいなと思います。」
宮田さんは、ユネスコ無形文化遺
産への登録に向けた俳句に対する機
運の高まりに期待を込めている様子
でした。

市では、芭蕉さんの生誕地の責務
として、今後も俳句の啓発活動に積
極的に取り組んでいきます。

◆ユネスコ登録をめざして
動き出しました



▶ 今回の呼びかけ
人である国際俳
句交流協会長の
有馬朗人さんと
岡本栄市長

る俣翁舎で、ユネスコ無形文化遺産
登録をめざす発起人会を開催し、登
録推進のための今後の取り組み方な
どを協議しました。

また、翌日の23日には、ユネスコ登
録をめざす記念講演会を開催し、有馬
朗人さんが「東洋とくに日本の詩と、
西洋の詩」と題して、日本で生まれた
俳句の特長についてお話をしてくだ
さいました。

▼発起人会の様子。（中央の机左
から）現代俳句協会の伊藤政美
副会長、岡本栄市長、有馬朗人
さん（公社）俳人協会の鷹羽持行
会長、（公社）日本伝統俳句協会の
大久保白村副会長



伊賀市は、俳句
に関連する団体や
自治体と力を合わ
せ、俳句をユネスコ
無形文化遺産に登
録し、俳句の持つ素
晴らしさを国内外
に発信していこう
と考えています。
これに伴い、7
月22日、上野公園
内の俳聖殿前にあ